

2026年度第2回森と水の源流館授業づくりセミナー概要報告

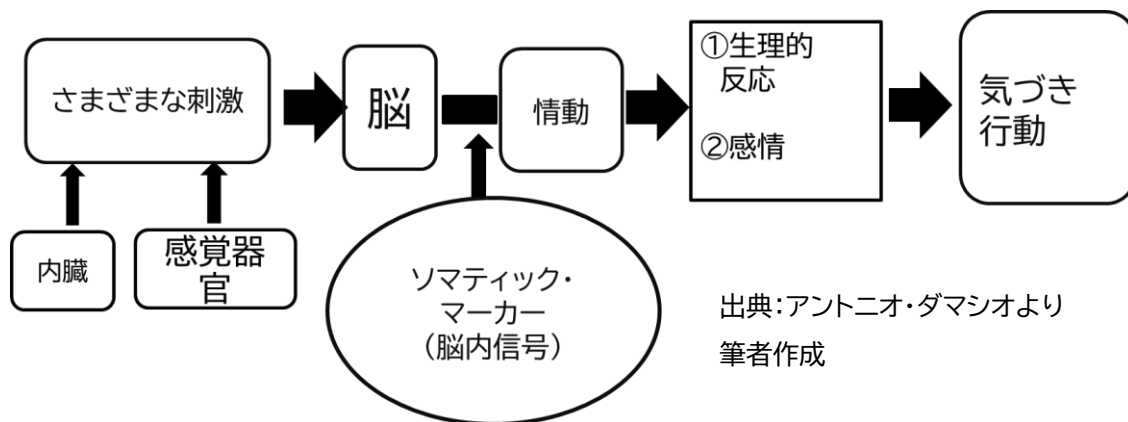
奈良教育大学 特任教授 中澤 静男

1. 開催日時 2026年8月01日(土) 10時～12時20分
2. 開催方法 ZOOMを用いたオンライン開催
3. 参加者 谷(谷林業)、中村(朱雀小)、島(七隈小)、蔵前(王北義務小)、
吉田(磯城野高)、加藤(川上村役場)、猪腰・安田(よいよい川上)、
岸田(東洋ライス)、備前(龍谷大学学生)、長友
源流館: 高田・木村・古山
奈良教育大学学生: 東・勝田 教員: 大西・中澤 合計18名

4. 内容

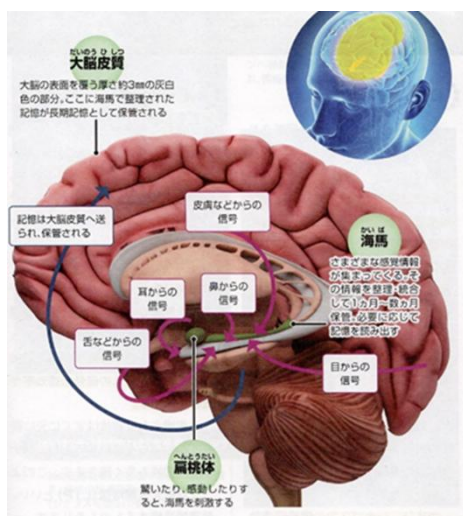
(1) 行動変容を促す学びとは(中澤)

① 持続不可能な状況に気づかせるソマティック・マーカー発生装置



生き残る確率を高めるためにすべての動物が5億年という長い年月を経て身に付けている。人間にも先天的に備わっているが、ダマシオが言うように、経験や教育によってソマティック・マーカー装置は鍛えることができるのか? ホモサピエンスは7万年前に木上生活から地上生活を選択し、生き残る確率を高めるために集団生活を選択した。7万年という期間で、本能が変化するだろうか。

② 行動変革をもたらす直観



全ての刺激は海馬にある扁桃体で評価され、長期記憶となった刺激は脳内モデルに位置付けられる。

長期記憶

手続き記憶・情動記憶・エピソード記憶・意味記憶

脳内モデルは一人一人違う。構成主義における「生活的概念」。人は自己の生活的概念と比較・統合する形で、外界の出来事を個性的に理解している。

脳内モデルに星座のようにいくつかの事象とつながりながら、バラバラに存在している長期記憶が、突然つながり、新たな理解をもたらすのが直観。直観は快感を伴う。

直観が行動の変革をもたらす。

③ 長期記憶に位置づきやすい学習活動

・感覚を伴って学ぶ

視覚だけでなく、聴覚・触覚・味覚・嗅覚などを総動員して
学ぶ（現地で学ぶ）ことで長期記憶に位置づきやすい。

・特別の状況を利用する

実験・現地見学・人との出会い（インタビュー）・旅行（特に一人旅）などでの学びや体験は、脳内
モデルに位置づきやすい。

・他者と対話的に学ぶ（他者の脳内モデルを借用できる）

（２）単元構想案の作成

・A4、1 ページで作成する。

・導入と3つの発問で単元を構想する。

中心発問・深める発問・発展させる発問

・導入・発問時にその時の子どもの反応を予想して「吹き出し」に記入する。

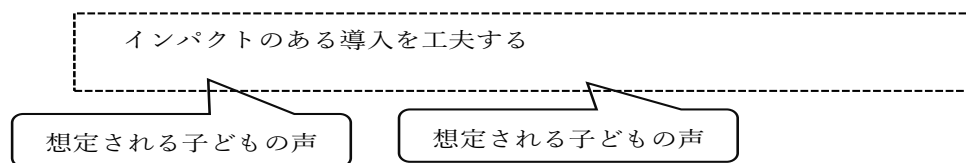
1. 単元名

2. 単元の目標

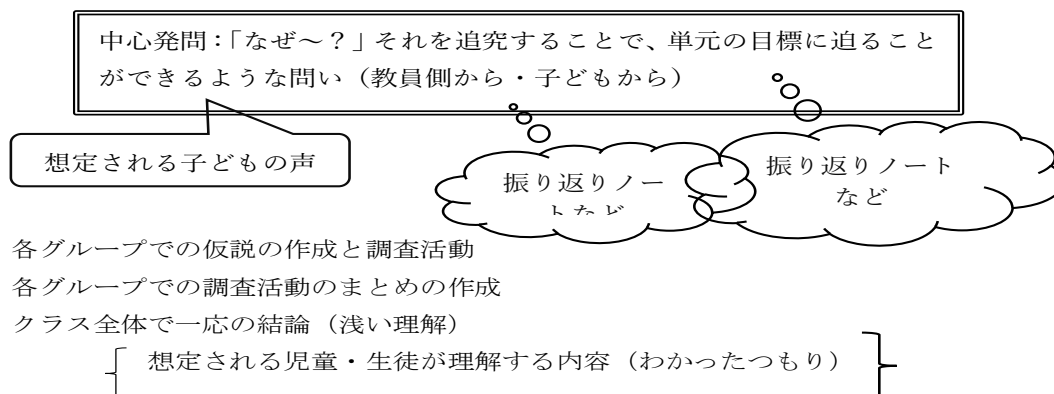
- ・知識・技能に関する目標
- ・思考力・表現力・判断力に関する目標
- ・学びに向かう態度・人間性に関する目標

3. 単元展開の概要（全〇時間）

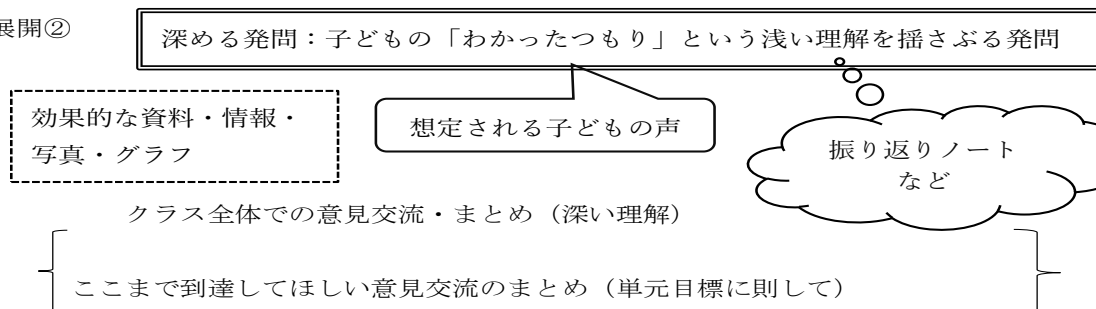
導入



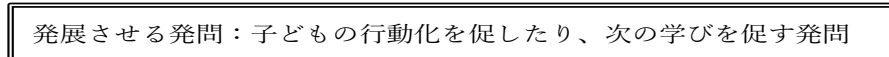
展開①



展開②



展開③



振り返り作文等で表現

(3) 谷林業の取組 (谷茂則氏)

谷林業社長・大和森林管理協会会長・奈良県地球温暖化防止活動推進センターセンター長

①吉野林業の特色

密植・多間伐・長伐期の森林施業体系

山守制度：投資運用型の林業

大型機械導入のための路網整備、架線やヘリを使った搬出

→ビジネスとして成り立つことが難しい状況

②新しいビジネスモデルとして、森林を受け入れる社会システムづくりが必要

かつての吉野林業の基盤

・筏流走路、数寄屋風書院造の流行、樽丸林業（酒樽需要）、吉野郡中材木方、山守制度

これからの時代

・都市生活者に森林環境を身近なものに感じてもらう。森林の状況を自分事化してもらう。

・頭で理解するだけでなく、感性として森林を大切なものととらえてもらう。

→ 森と人の日常的なふれあいの場を創設する必要がある。

陽楽の森：作業道開設をきっかけにフェスを開催。

断熱ワークショップなど、都市生活者を対象に様々なイベントを開催。

環境省「自然共生サイト」に選定される

大和森林管理協会：まきボイラー 吉野山主有志の会；持続可能な森林経営・Jクレジット創出

③陽楽の森のコンセプト

長期スパンで楽しく取り組む

簡単な接点をたくさんつくろう：山歩きイベント

陽楽の森をプラットフォームとして多くの世代や領域の人々をつなぐ

(森の入り口接点創出プラットフォーム)

奈良県初の木造ZEB建築（省エネと創エネで必要とするエネルギーを0%以下にする）

9月2日にカフェ「メーラーコーヒー」をオープン カフェ・食堂・パン・森のジェラード

③有聲恒続林思想（1922年 アルフレート・メーラー提唱）

・法正林：皆伐と植林を繰り返す

・森林は一個の生命体（有機体）：森林有機体」は「複雑きわまる関係に立っている」ため、外部からの干渉は「われわれに熟慮を要求し、注意を喚起する」

・土地は（中略）森林から独立したものではなく、森林有機体の一つの器官であって、林木の生長を規定するとともに、森林有機体によって影響され変化せしめられるものである

・「恒続林」の条件

針葉樹や広葉樹といったあらゆる樹種が入り交じる「混交した森林」

木を間引く間伐を行って木材を収穫し、時には人工植栽も行う。

皆伐は最大の悪事である

○世界の課題を考え、森で実践する。

○地域で人と人との関係をデザインする。その実践を次の地域に届ける。

（４）意見交流

- ・学校との接点を増やしていきたいと考えている。
- ・竹を用いた飯盒炊爨
- ・アウトドアの達人による講座の開設 キャンプ場の開設
- ・水・木・土・食は人間活動の基本、楽しく続けていってほしい
- ・林業システムに変更に取り組むことは素晴らしいと思う。
- ・環境を仕事にする難しさもある。
- ・グルリーンインフラ：今ある森を健全な状態に保つ
- ・ネイチャーポジティブ：森の健康状態を回復させる